



この地域で「ともに住み、ともに生きる」わたしたち

NPO法人西東京市多文化共生センター (NIMIC) 代表理事 山辺 真理子

パッチワーク型活動で大きなキルトを

NIMIC (ニミック) は、2006年設立の市民ボランティアによるNPOです。20人足らずでスタートした団体が、2022年現在200人規模に育ちました。多様な背景を持つ人たちがお互いを認め合い、関わり合いながら暮らしやすい地域を作るのが私たちの願いです。

活動拠点は西東京市で、宿場町・商業地として栄えた田無市と、農村地帯から住宅都市に変貌した保谷市が2001年に合併してできました。西武新宿線と西武池袋線2本の鉄道が走り都心まで20分という便利さに加え、地域の10%が農地で緑が多く随所に産地直売の野菜スタンドがあり、のんびりして住みやすいという声を聞きます。ドラえもんやシンエイ動画、多摩六都科学館、縄文遺跡、地場フルーツなど全国に誇れるものもあります。

2022年7月の全人口は約20万人、外国籍人口は5,000人弱、国籍は多様で70くらい出身地がありますが、上位4カ国の中国、韓国、フィリピン、ベトナムで全体の7割を超えています。外国ルーツの方々是最初支援を受けながら地域に馴染んだところで、多言語サポートなどのボランティアを始めてくださいます。



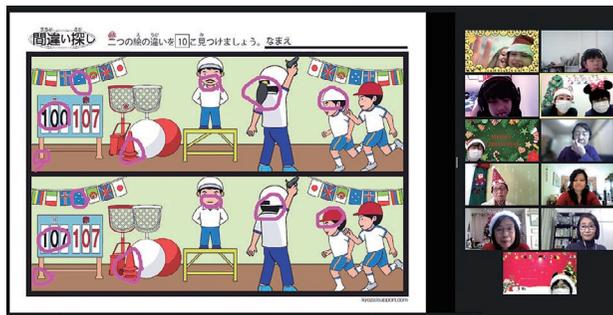
在住外国人の声を聞き、交流パーティー会場へ

日本人ボランティアは、長く地元に住みより住みやすい地域にと活動する人、国内移動でニューカマーとして地域に溶け込む拠点にする人、海外生活の恩返しをする人、活動に使える曜日も時間帯も様々です。みんなが少しずつ得意分野を持ち寄って活動しています。いわば

パッチワークでつくるキルトのように、様々な個性のある小さなパーツが集まると味のある大きな1枚のタピストリーすなわち活動になります。



オンライン留学生ホームビジット 2022

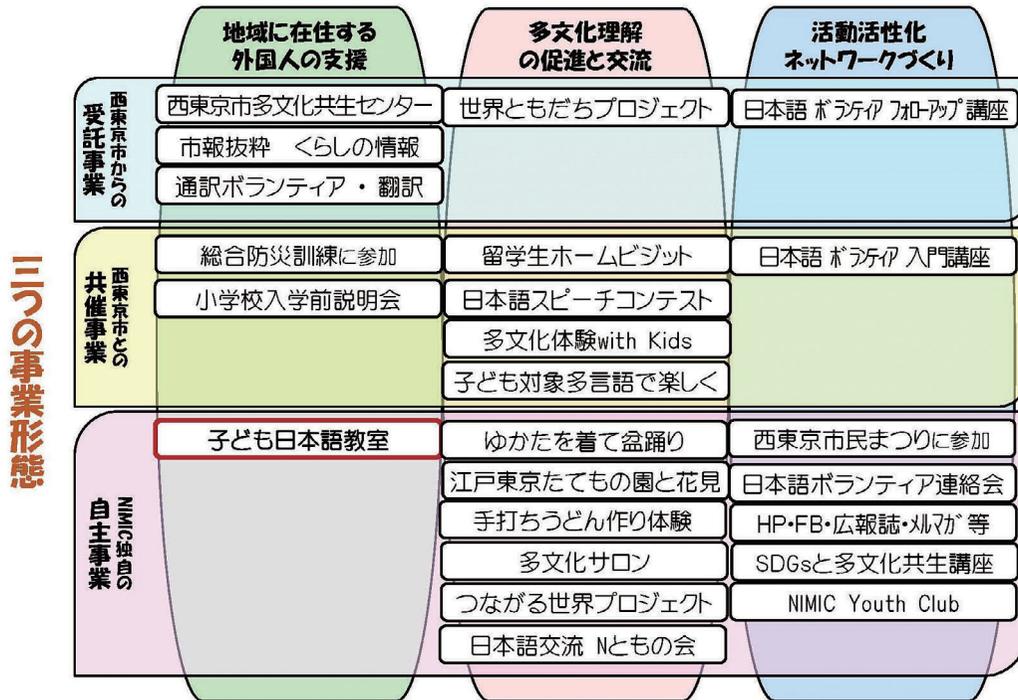


子ども日本語教室お楽しみ会

事業の3つの柱、3つの事業形態

事業は大きく3つの柱で構成しています。①支援、②交流、③活動の活性化です。事業形態は、完全な自前の自主事業、広報や会場などに自治体や他団体の協力を得る共催事業、自治体からの委託事業です。①の代表的な事業例は、多言語相談、通訳ボランティア派遣、市内4カ所で開催している子ども日本語教室、②は、留学生ホームビジット、日本語スピーチコンテスト、日本語交流プログラム、多文化サロン、多文化体験 with Kids など、③は各種講座や広報活動です。事業の目的が住みやすい地域づくりなので、なるべく多様な人を巻き込み、協力して進めていきたいと考えています。却って手間はかかる

事業の三つの柱



事業全体構成図

りますが、その手間こそが活動そのものでもあるかと思っています。一方で、だれでも参加できるように省エネも大切にしています。オンライン会議、LINEグループによる情報共有、印刷物の電子化、メルマガの自動配信などです。



在外国人講師による小学校でのワークショップ

事業継続のための2つの課題

どの団体にとっても、事業の発展的な継続のために次世代育成と活動資金の確保は大切です。ボランティア活動はある程度時間に余裕のある人が中核を担うことが多くメンバーが高齢化しがちですが、高齢化そのものが問題ではなく、硬直化や次世代育成が停滞することが問題なのだと思います。コロナ禍は、高齢世代にオンライン対応の技術を習得させ、若い世代は身近なことに目を向ける機会となりました。NIMICでは、若きボランティ

アの方で2020年にホームページをスマホ対応にし、情報発信ツールを充実させてきました。今年2022年度は、次世代育成とパートナーシップを重点目標に掲げ、Youth Clubの設立、SDGsと多文化共生を絡めた若い人対象の講座を新たにパートナーシップを組む地元の文化施設と共催します。



浴衣で夏まつり2019

活動資金の面では、支援活動に受益者負担を求めるのは難しく、自治体の委託事業の割合が高くなっています。交流活動は市民ボランティアをコーディネートして実施していますが、事務局運営には専従職員を配置する財政力を付けたいと思っています。社会的課題の解決を目指す非営利活動でどのように資金を調達するかは長年の課題となっており、多様な考え方を持つ集団である強みを生かして、今後も解決策を探っていきたいと思います。